「ぼくはなきました」を読んで

泉崎第二小学校二年　深澤さん

「ぼくはなきました」という本のだいめいを見たとき、どうしてないたのだろうと、わけをしりたくなりました。ぼくも友だちとけんかをすると、ないてしまうことがあるからです。それで、読んでみようと思いました。

読んでみたら、そうたくんとぼくは、にているなと思いました。それは、そうたくんがお母さんにおこられているところです。そうたくんは、朝おきるのがおそくて、おこられます。ぼくも朝おきるのがおそくて、お父さんとお母さんに、おこられてしまいます。それから、学校のおたよりもちゃんと出さないで、おこられることがあります。そうたくんもぼくと同じだなと思いました。ぼくは、おこられるのはいやだから、朝は、じぶんではやくおきようと思っています。でも、なかなかおきられません。よる、ゲームをしてねるのがおそくなってしまうからです。お父さんとお母さんに、

「はやくねなさい。」

20 × 20

と言われても、もうすこしと思って、ついついおそくなってしまいます。そうたくんもそうなのかなあと思いました。はやくねるように、気をつけていこうと思います。

そうたくんは、じぶんのいいところは、ぜんぜん見つけられませんでした。でも、先生が、

「そうたくんのいいところは、友だちのいいところをたくさん見つけられるところだよ。」

と、教えてくれました。そうたくんは、いいところをたくさん見つけられてすごいと思いました。ぼくは、友だちとあそぶとき、なかよくあそべないときがあるので、そうたくんみたいに友だちのいいところをたくさん見つけてなかよくあそびたいです。

ぼくのいいところは、友だちとけんかしても、ちゃんとあやまってまたなかよくあそべるところだと思います。これからも、そうたくんみたいに友だちをたいせつにしていきたいと思います。

20 × 20